

「壮大なるロマンチスト」  
～山崎光悦さんのお人柄～

私の実家からあぜ道を歩いて数百メートル。

山崎光悦さんのお家。

屋敷林に囲まれた、典型的な散居村の一軒家。もちろん大豪邸。富山県南砺地区。

時々歩いておじゃますると、山崎さんは決まって外回りの雑草をむしっている。真っ黒に日焼けして、大粒の汗をあごまでしたたせながら。近所のおじさんそのもの。

「せんせえ、遊びに来たよ。一杯やろまいけ。」

と声をかけると、満面の笑みで立ち上がり、シャワーを浴びて来て一献つきあって下さる。

この気さくさと、愛くるしい笑顔。

金沢大学学長として8年間、次々と改革を成しとげて来た強腕のバックボーンにあるのは、大自然にとけこむ素直さと、好奇心いっぱいの人間力があるから。そう確信している。

東北の復興、再生を担うにふさわしい包容力と、組織をまとめあげる人間力の持ち主であり、研究開発分野の目利き<sup>めき</sup>であることは論を待たない。

とりわけ「ナノ生命科学研究所」が文科省から世界トップレベル研究拠点プログラムに採択されたのは、山崎さんの眼力と実践力の賜物である。そのマネジメント力は、組織の活力を生み出す原動力でもある。

人と人を、教育と研究の力でつなぎ、地域の活力を向上させるアイデアと人脈に豊富な山崎さんこそ、東北の、日本の、福島<sup>ふくしま</sup>の再生に欠かすことのできない唯一無二のリーダー。

また、一献、かたむけましょうね。

石川県知事

馳 浩